

# 北海道文教大学 後援会 後援会報

No.  
12

## CONTENTS

後援会活動報告	1
理事長・学長挨拶	2
就職課便り	3
平成25年度後援会の主な事業	4

平成26年3月7日(金)

発行責任者 石山武浩  
発行係 〒061-1449 北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1  
北海道文教大学事務局学務部学生課内  
北海道文教大学後援会 TEL0123-34-0011

北海道文教大学後援会会長

石山武浩(旭川市)



### 〈ありがとう、誇りの持てる大学!〉

会員の皆様には日頃から後援会の活動にご理解と協力を賜り、誠にありがとうございます。後援会の会報の発刊も、十二号目を数えることとなり、この間の後援会の皆様の温かいご理解とご支援に対して、心から感謝申しあげます。

さて、北海道文教大学も開学以来十五年目を迎え、今年度は「国際言語学科」及び「こども発達学科」の第一期生が卒業します。就職と国家資格取得に強い北海道文教大学、医療機関や企業・行政にも評価を受け、毎年のように採用の案内が届き、就職率は道内トップ、各学科の国家資格取得率も道内トップクラスを保っており、入学希望者も多く受験倍率も高倍率で、毎年優秀な学生を受け入れています。このように順調な歩みを進めてこられたのも、旺盛な気力で勉学を積み重ねる学生の力、力強く支えているご家族の皆様、真摯な努力を惜しまない大学教職員、社会の力という、四つの力の総結集によるものです。学生にとってもご家族にとっても、誇りに思える大学となっています。

### 〈子供と大学を支える後援会〉

私の子供が入学した二〇一〇年には役員の手がなくなり、既に卒業された方々のご父母が会長や理事を担っていましたが、昨年二〇二二年からすべて在学中のご父母が役員となり、正常化を保つことができるようになりました。北海道文教大学後援会の会則では、北海道文教大学の建学の精神に則り、会員相互の協力によって本学を後援し、その発展充実に寄与することを目的としています。それを達成するために、(一)学生生活向上のための援助、(二)本学の正課外活動に対する援助、(三)本学在学生の父母との連携、(四)会員相互の親睦、(五)国際交流活動に対する援助、(六)特別会員の学術研修並びに福利厚生に関する援助、(七)修学資金貸付金による援

助、(八)その他、本会の目的達成に必要な事業と規定されています。正会員は、本学在学生の父母、又はこれに代わる者、賛助会員は、本会の趣旨に賛同し協力する者及び卒業生の父母、又はこれに代わる者、特別会員は、本学に在職する教職員となっています。役員は、会長一名、副会長三名(特別会員以外から総会において選任する二名と本学学長)、監査二名を総会において選任し、その他の理事は各学科の正会員から三名以内及び学部長、会計は特別会員から一名、幹事は特別会員から若干名で、任期は一年、再任は妨げないとなっています。

### 〈参加して楽しい年間行事〉

年度初めは、四月の入学式後に後援会総会があり、七月にはキャンパスウォッチング、十月には大学祭と父母懇談会、三月には学位記授与式と卒業祝賀会です。また、役員になると、理事は年三回(六月・十二月・三月)の会議、理事の中からワーキングメンバー(理事の代表と三役)は年三回(五月・十一月・二月)理事会の前に詳細な検討を行う会議で、それぞれの会議は札幌で開催され、日程は役員で調整し、時間帯は主に、夜一八時から二十時となっています。

### 〈一緒にやりませんか、やりがいある活動〉

会則では役員理事が全員で十八名(各学科から三名以内)とされ、学年は各々三〜六名ずつと各学年・学科が重複しないように万遍なく選ばれるようになっていきます。会長一名・副会長二名・監査二名がワーキングメンバー(三役と代表理事で役員会の事務局的存在)となり、事業計画・予算案作成・事業の執行・会計監査などを行ってきました。役割はボランティアですが、旅費等は保障されており、自己負担することはありません。

### 〈大切なお金の使い道〉

後援会の年間予算は約四、二〇〇万円以上あることから、根拠をもった事業を執行し、有効に活用できるように、選出された理事で検討を重ね計画・執行してきました。今年度も、学生生活助成、「後援会文庫」整備事業、父母懇談会での

大学祭助成、卒業記念品(システム手帳)、卒業祝賀会費、就職活動助成、学生指導助成等に支出しました。

### 〈子供がくれたプレゼント!〉

今年度で役員を退任することになります。子供が大学二年の時から役員となり、今年度より会長としての任務に就き、卒業までの四年間はアツという間でしたが、「子供がくれたプレゼント」と受け止め、役員をやって本当に良かったと思います。子供や大学・教職員の皆様との距離が近くなり、どんなキャンパスライフを送っているのかが手にとる様にわかり、父母として安心して子供を預けられる大学だと確信することができました。思い起こせば、入学式後の総会で、今後の人生・進路を決める最後のお手伝いと思い役員に立候補しました。しかし、当時は、地方在住ということで役員になれませんでした。現在は遠方の方でも関係なく、役員会には常に参加できることを最低条件として、希望者の誰もが役員となれるよう、「ご父母へ「役員希望アンケート」を実施しております。会員の皆さん、是非とも立候補し、積極的な後援会運営参加にお力をお貸しください。お子様が在学中・新入学のご父母の皆様には、役員としてお力をお貸し頂けることを、切に願います。

### 〈子供・大学・父母の皆さんに感謝!〉

会長として、会員の皆様へ年間の後援会活動をお知らせしてきましたが、今後も後援会活動がより活性化するように取り組んでまいります。いろいろな視点から会員の皆様のご意見・ご要望をお寄せいただき、大学の充実・発展や子供たちの為に、今、何ができるのかという視点をふささせること無く、後援会活動を会員の皆様と一緒に進めていくことをお約束して、報告を終わりにしたいと思います。

最後に、一緒に活動を共にしてきた役員の皆様や大学の皆様のお陰で、充実した役員活動を送ることができました。本当にありがとうございます。



# 未来に生きる国際性の涵養

学校法人鶴岡学園 理事長  
北海道文教大学 学長

鈴木 武夫



急速に進展するグローバル化・国際化の潮流のなかで、個性的で多様な価値観を共有し、異なる文化や生活様式を可能な限り広く受容して、学びうる地域に自ら出向いて、どんどんキャリアアップする時代になっています。

本学の学生にあっても留学を経験してくと、目覚ましい成長を遂げていることに目を見張る思いをすることが多いものです。

文部科学省も、平成二十六年度の新規事業として「スーパーグローバル大学事業」に取り組む方向を打ち出しているのは、この状況への対応を急いでいることの表れでもあります。

学生の国際性の涵養のためには、三段階のステップがあります。

第一段階は、「国際コミュニケーション能力」の涵養です。何よりも実際に通用する確実な語学力です。多少ゆつくりでも抑揚が平板であっても、相手に思いを伝えたいという情熱が基礎になります。

私たちが、外国の方が懸命に日本語を使って伝えようとする様子から気持ちをくみ取るように、怖じることなく伝えることです。

第二段階は、「国際理解力」の涵養です。これとはともなわず「異文化理解力」です。国と国とがある時期関係がぎくしゃくしていても、庶民レベルでの

意思の疎通さえあれば関係改善の方向が見えてきます。

たとえばオリンピックやパラリンピックでの感動の共有によって、国同士の溝が埋められ友好関係に転ずるよい機会にもなるでしょう。

第三段階は、「国際的創造力」の涵養です。国と国との基礎的教養と専門的学問研究の統合によって、国際的に技術や文明が革新されるという場面がとんとん増えております。

数十年後には、世界の人口が百億にも達するといふ予測もあります。食糧をはじめとする生活物資の供給は、全世界的な共通の課題になることは必定であります。そこでは「国際的創造力」による連携が不可欠になることでしょう。

本学がその開学の時点において、道内唯一の外国語単科大学としてスタートした伝統を忘れてはなりません。教育目標には「現代社会の国際化及び情報化の進展に伴い、国際的な感覚と高度な語学力を備え、異文化に対する正しい理解と協調の精神をもち、国際社会の中で主体的に行動できる人材の育成が急務になっている」と掲げております。

後援会の皆様におかれましては、なお一層のご理解とご支援をお願い申しあげます。



## 就職課便り

## 変化する就職戦線と学生思考

北海道文教大学 就職部長 野村 直樹

四年生(二〇一四年三月卒業生)の就職解禁は、一昨年十二月一日全国二斉のスタートラインとなりました。それまでとは違い、就職活動期間が早まったことから、各大学の内定率は、前年同等かそれ以上の状況で推移している大学が多いようです。また、企業が提示する求人票についても質・量共に増加傾向を示し、景況感の改善から採用数を増やす企業がある傍ら、学生による大手企業志向が復活する兆しが上半期に顕著となりました。

合同企業説明会においては、参加企業ブースに対し参加学生数の低迷が続きました。原因としては学生意識の問題と同時に、ウェブエントリーが簡単にできることや、大手志向、有名企業への応募傾向が強まり、説明会に参加しなくても画面上で簡単に応募が出来ることも一因と考えられます。

これまで学生は「地元企業を中心に就職先を選ぶ」傾向がありましたが、今年度は、知名度が高い企業に流れる傾向が見られました。道内の求人情勢も大手小売業を中心に新規出店の動きもあり、企業の採用意欲は高まっています。就職氷河期に採用を抑制してきた企業及び政府の経済政策、景気動向、金融緩和等から久しぶりに新卒大学生を採用する企業も現れました。

学生就職活動の一部ではインターネットやスマートフォンから欲しい情報だけを得ることに慣れ、付き合いも同級生など狭い付き合いに限定されがちです。企業が重要視する対人コミュニケーション、柔軟な思考と行動力、主体性、論理的思考、粘り強さ等は人と面談する事により向上し、就職活動を通して育成されてくるものです。学生の内定に関しては「いくつも内定が取れる学生と全く取れない学生」との二極化は年々広がる傾向にあります。

三年生(二〇一五年三月卒業生)に対しては、就職講座を実施していますが、学生は学内外共に就職活動の本格化を実感しています。以上のように変化す

る学生思考と行動傾向を踏まえて、就職課としての就職支援活動の取り組みを次にお知らせします。

## 個々の学生への就職活動の支援

大学生の中でも、「就職したい」「就職しなければならぬ」との意志を持たない学生が増えてきているようです。また、「就職したい」願いがあっても、どのように希望の進路先を選択し、就職活動に向けての準備や活動の仕方等、就職に関わる具体的な情報の収集や行動が出来ない学生が多くなっています。

大学教育においても、明確な就職活動に対する意志と行動力を持った学生に対する相談体制に加え、就職活動の意欲に欠ける学生への積極的な支援が必要であると思います。想定される大学生の現実を踏まえた学生への就職活動の支援が求められます。

就職課では、一人ひとりの学生の主体性を大切に、その主体性を生かしながら学生の就職活動の意欲を喚起し、学年進行に合わせ、計画的、系統的に取り組むよう学生に働き掛けをしています。

三年生は授業の中で、進路についての考え方や具体的な就職活動の進め方を学んでいます。学生一人ひとりの目指す進路や課題は、さまざまであり、個々の学生について、進路指導に丁寧に対応し、学生の要望や求める情報について応える必要があります。進路について、真剣に考える程、悩みを抱える学生が目立ちます。その為に就職課では、次のことを実施しています。

- 一、学年を問わず、いつでも気軽に就職指導室に出入りし、進路に関する相談ができるよう、時間に捉われず開放できるようにしています。学生は、積極的に就職課を活用しながら、アドバイザー教員の勧めなどもあり、就職課職員と面談を行っています。平日頃から学生の立場に立って相談できる体制づくりに取り組んでいます。

- 二、四年生については、就職課としてアドバイザー教員における学生の就職活動への精神的な支援を依頼すると共に、個々の学生への連携を密にし、内定獲得に向けての就職活動の働き掛けを強めています。

- 三、三年生の学生は、後期から外国語学部、人間科学部健康栄養学科において外部講師を中心とした就職講座によって、系統的に就職活動の基本から段階的に学び、実践的な就職活動を具体的に学んでいきます。

- 四、人間科学部理学療法学科・作業療法学科及び看護学科それぞれの専門学科では、大学医学部、病院での実習・見学等を行っています。学科の専門的職業に携わる方々の講義や施設見学によって授業での知識や技術を確かめながら、勤労観や職業観を徐々に培う学習体験を学年進行や専門性の深みに応じて実施しています。

- 五、平成二十六年三月卒業のことも発達学科一期生については、三年生において、一般企業希望の学生を中心に就職活動についての集中講座を開催しました。保育所・幼稚園及び小学校教諭希望者を含め、多くの学生が受講しました。

就職課では就職指導室を常に開放し、学生の希望に応じ、学生の立場に立った一人ひとりの学生の就職活動を支援することを基本に取り組みんでいます。



# 平成二十五年度 後援会の主な事業

後援会は、会員相互のご協力により北海道文教大学を後援し、その発展充実に寄与することを目的として、平成十六年度に設置されました。子どもたちに、より豊かで実りあるキャンパス生活を送ってもらおうよう、本後援会は皆様からお預かりした後援会会費で学生活動助成、就職活動助成等の様々な事業を展開し、学生生活の向上や正課外活動の援助等を実現すべく事業を行っています。

平成二十五年度に行った主な後援会の助成事業等を次に紹介いたします。なお、( )内は平成二十五年度の予算額です。

## 一、学生生活活動助成事業(一、二五〇万円)

- 学生が主体となって活動する大学祭、体育大会、クラブ活動等の各種行事に助成しています。
- (一)学友会(学生会)の各種行事・活動補助事業
- (二)文化・体育の各部・サークル、同好会、愛好会の活動補助事業 等

## 二、就職活動助成事業(五〇〇万円)

- 学生の就職活動として行う行事・事業に助成しています。
- (一)資格取得奨励金・・・資格試験に合格した場合に奨励金として助成  
(TOEIC六〇〇点以上など十二試験)
- (二)就職セミナーの開催
- (三)履歴書添削指導
- (四)業界研究セミナーの実施 等

## 三、「後援会文庫」整備事業(四〇〇万円)

国家試験等の資格取得等の支援事業として、試験問題集、参考資料、試験専門図書等を購入し、図書館等で管理しています。

## 四、卒業記念品、卒業祝賀会の開催事業(八〇〇万円)

- 学位記授与式(三月二十一日)に合わせて卒業生に記念品を贈呈すると共に、祝賀会を開催します。
- (一)卒業記念品として卒業生に「システム手帳」を贈呈
- (二)卒業祝賀会を札幌市内で開催

## 五、学生指導助成事業(四五〇万円)

学生相互及び学生と教員の緊密な関係を形成するために、各学科・学年ごとに実施する「学生交流会」等を助成しています。

## 六、図書館の机・椅子の購入補助事業(四〇〇万円)

学生から要望のあった、効果的な学習方法である「ラーニング・コモンズ」(小グループ学習を主体とした学習)用の机・椅子を購入し、図書館に寄贈する予定です。

(ラーニング・コモンズは、グループでのディスカッションや友達との教え合いなど会話しながらの学習が可能なおスペースです。移動可能なテーブル・椅子を自由に配置し、ホワイトボードやパソコンを利用して人数や目的に合ったレイアウトで、好みのスタイルにあわせた学習空間を作り出すことが可能です。)

来る四月五日(土)入学式終了後の十三時三十分から、平成二十六年後援会「総会」を開催します。平成二十六年度の「役員の選出」や「事業・予算を決定」いたしますので、会員皆様のご出席をお願いいたします。また、後援会理事等の「役員」にご協力くださる方を募集いたします。



(学務部学生課)

## 全力を発揮して、ソチ五輪

二月七日から二十三日までの十七日間に渡って開催されたソチオリンピックで、本学健康栄養学科四年生の米山知奈(ヨネヤマハルナ)さんが、女子アイスホッケーの日本代表として精いっぱいのパフォーマンスを繰り広げ、活躍した。ソチに向かう直前の、一月十六日には全学壮行会を開催し、鈴木理事長・学長、原田恵庭市長をはじめ多くの学生や教職員が、米山さんの活躍を祈った。担任の佐美先生からは、

「入学した時に、米山さんの目標はオリンピックに出ること、栄養士の国家資格を取ることと言っていた。まず、その一つがかなえられる、とても素晴らしい。」との激励があり、米山さんからは「ソチで全力を出し切ることと、帰ったら国家試験に合格する」と文武両道の意気込みが寄せられていた。

米山さんのソチでの頑張りはテレビで応援したが、米山さんに限らず、二月中旬から三月下旬に行われる各種国家試験を受験する本学の学生全員が、実力を発揮して合格するように応援している。



鈴木理事長・学長、原田恵庭市長、たくさんの学生・教員に囲まれた米山さん(中央花束を持つ)

(学務部学生課)